

2020年3月期 第2四半期決算説明における質疑応答の概要

(2019年11月6日(水)、東京・ニチレイ本社)

【グループ全体】

Q. 大櫛社長は就任されて半年が経過したが、手応えや課題など総括をお願いしたい。

A. 加工食品事業と低温物流事業が牽引し、利益面では、ほぼ計画通り進捗している。ただグループの総合力を上げるという面では、水産・畜産事業、その他の事業のバイオサイエンスが今期は苦戦している状況である。

国内の食の環境はものすごく変化しているが、アドバンテージのある生産機能に加えて、技術開発や企画・提案力も強化しており、顧客対応力をさらに上げていきたい。海外では、米国でアジアンフーズの冷凍食品市場は伸びている。ここでのカテゴリの深掘りと拡大を図り、売上げを伸ばしていく。

また、水産・畜産事業については、量的拡大から、加工度を高め、付加価値を付けていくことで、収益性を伸ばしていく。

【加工食品】

Q. 家庭用が好調な要因と、業務用が2Qで伸びた理由を教えてください。

A. 家庭用では、「本格炒め炒飯」や「特から」が2桁で伸びたが、ポイントは美味しさをどう出すかである。例えば「本格炒め炒飯」は、本格的なプロの味を電子レンジで出来るように、これを大量生産することは難しかったが、技術部門の日々の研究により可能となった。

業務用では、チキン加工品を中心に中食向けは堅調に推移しており、特に2Qから大手ユーザー向けの納品があったことにより伸長した。

米飯やチキン加工品については、研究開発や機械装置を含めた商品開発に相当な経営資源を投入した成果が出ており、今後も手をゆるめず注力する。

Q. 下期減益の主な要因を伺いたい。

A. 説明会資料の8ページに増減要因を示しているが、関係会社の業績は前下期から改善しており、それが一巡することや、足元でパーツの為替レートが前年同期比7%程度上昇しており、このマイナス影響を見込んでいる。また、上期はタイ国内の鶏副産物相場が上昇し、販売価格が前期を上回って推移したが、下期は落ち着くと見ている。これらに加えて、減価償却費の増加などもある。

【低温物流】

Q. 保管の需給環境と適正料金収受の進捗についてお聞きしたい。

A. 首都圏では庫腹不足が続いている。これは首都圏への貨物集中のほか、同業各社とも「働き方改革」を踏まえ、貨物量を無理して取り込まなくなる動きが顕著になっており、従来よりも利用できる庫腹量が少なくなっていることも要因の1つである。また、人手不足が続くなか倉庫内作業員を確保するためには、労働条件を整備していくことが必要であり、コストやサービス品質に見合った適正な料金を収受できるよう、計画的に交渉を進めていく。

Q. 営業利益の上方修正の理由と今後の見通しを教えてください。

A. 保管需要は下期も順調に推移する見通しから、営業利益を上方修正した。次期は、今期上がった分ペースは上がるが、大型の新設センター稼働に伴う一時費用により、数字としては踊り場になる認識に変わりはない。

【その他】

Q. 「その他の事業」の営業利益下方修正の要因を伺いたい。

A. 主にバイオサイエンス事業において、分子診断薬や迅速診断薬の販売が年初の計画に届かないことに加えて、新しい研究開発センターの稼働に伴う費用や、米国での買収関連費用など一時的な費用が発生したことにより、下方修正した。

以 上

※当文書は当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。